

mmに切って、V.Cの還元性を利用した Sosa および Eranko の2方法で硝酸銀処理をし、実体顕微鏡並びに光学顕微鏡観察に供した。

3. 成長に伴ってV.Cの分布にかなりの消長がみられる。種子が形成される初期の段階においては、それを囲っている柔組織にV.Cが多くみられ、成熟するにつれて次第に減っている。また、食用部(子房壁)の表皮に近い部分では成熟するにつれて次第に増し、過熟して赤変すると少なくなる。これはクロロフィルの増減と関係があるようである。しかし、過熟ピーマンにおいても子房壁の内層部にはまだかなりのV.Cが検出された。

#### A-40 V.Cに関する研究(第3報) ピーマンの成長に伴うV.Cの消長

広島大 田村 映江

1. 演者は先に成熟ピーマン(食用部)のV.C分布を組織化学的に検索し、表皮に近い部分や維管束の周囲に多いことを報告した。

今回は結実後間もない幼ピーマンから、次第に成熟し、赤変して過熟になるまでの成長段階を追って、V.Cの消長並びに組織における分布をみたので報告する。

2. 方法としては、前報と同じく、組織を0.5~1.0